

富澤コラム23

理事長交代について

理事長 富澤 暉

6月9日の評議委員会決議を経て、同日付で理事長の任を解かれることになった。理事会での「財政立て直し案」決定を先送りしたまま辞めるのは恥ずかしいことだが、お許し頂きたい。私も80歳となり、横浜から市ヶ谷への往復に疲れを感じるようになった。妻は「私も疲れている。遠い東京へ出るのは止めて、もっと家事を手伝って欲しい」と言う。また、隊友会、水交会、つばさ会等の理事長方は皆、歳の離れた後輩ばかりとなった。

借行社は「英霊に敬意を。日本に誇りを。」という言葉の下に会員を集める法人だが、年齢・階級差なく、更に組織としての特定政治思想もなく、極めて自由な団体である。

例えば安倍自民党総裁による憲法改正提案についても色々な意見があり、会員各個が内外に活発な意見を発信している。無論、肝心の「軍事問題」については「軍事を全く知らない国民・政治家・マスコミ」に対して、ある程度平仄を合わせることが必要だが、それでも細部については色々と異見が噴

出する自由闊達さが必要である。

その自由を更に維持・発展させる中で、これまで多くの先輩方がそうされたように、今後の私にも、各種会合や借行誌上に皆様との交友の場を賜り、楽しませて頂きたいものと希望する。

疲れる仕事は若い方々にお願ひするけれども、傘寿の老人ながら「枯れ木も山の賑わい」で何がしかお役に立てるかも知れないし、勝手ながら「私自身の生きがい」にもなるのではないかと期待するからである。

先輩・同期・後輩その他、全ての会員方に心よりの御礼を申し上げ、最後に、中学の国語教科書で習った河井醉茗（1874～1965）の詩の一部を記して、お別れの言葉とする。

ゆずり葉

こどもたちよ、

これはゆずり葉の木です。

このゆずり葉は

新しい葉ができる

入れ代わって古い葉が落ちてしまうのです。

こんなに厚い葉、

こんなに大きい葉でも、

新しい葉ができる

と無造作に落ちる。新しい葉にいのちを譲って。